

天ヶ瀬観測室で記録されたスマトラ島沖地震の歪波形

Strain seismograms from Off the west coast of northern Sumatra earthquake recorded at Amagase observatory

森井 亙[1]

Wataru Morii[1]

[1] 京大・防災研・地震予知

[1] RCEP, DPRI, Kyoto-Univ.

12月26日に発生した「スマトラ島沖地震」に際して、天ヶ瀬観測室（京都大学防災研究所附属地震予知研究センター）では、良好な歪地震記録が得られた。天ヶ瀬観測室にはN72.5°W、N62.5°E、N27.5°Wの水平3成分と鉛直成分の合計4台の伸縮計が設置されている。ほぼ震央方向を向いたN62.5°Eの歪地震記録上では、R1～13までのレイレイ波の再帰波が同定できた。また、震央距離が約5400キロメートル有るにもかかわらず、 10^{-10} 乗の桁のストレイン・ステップが記録された。ステップ量はN72.5°Wの成分で約 3×10^{-10} 、N62.5°Eの成分で約 7×10^{-10} であった。この値は、半無限弾性体を仮定した近似計算の結果とよく一致している。また、鉛直成分の記録から求めたスペクトルには、地球自由振動の周期と一致する多数のピークが認められ、0S2のスプリットングを示すと考えられる複数のピークも認められた。